

你好 34号

中 国 語 を 学 ぶ 会

2013年1月 第 3 4 号 発 行

連絡先 渡邊 090-8588-2430



『中国語を学ぶ会』40周年を迎えて

会長 渡邊 敏行

2013年 今年我々の会は記念すべき年になりました。

1973年にスタートし、諸先輩の努力の結果、この「中国語を学ぶ会」も40年間の歴史ある会になりました。

中国勤務で休会される方、出張が多く夜間の参加が無理となった方、いろいろな事情で参加できなくなった方など、それぞれの事情で今在籍29名となっています。

猛勉強の結果3級を合格された三橋さんのように一生懸命勉強している人や私のようにただだと中国語と文化を楽しんでいる人や、様々な人たちに囲まれ、楽しい会になってきたように感じています。また、毎年恒例となった研修旅行も昨年の“桂林への旅”はいろいろなエピソードもあり楽しい旅行ができました。

現在、在日中国人は何人か知っていますか？

また、在中国日本人の数は？

答え：在日中国人 675,000人。在中国日本人 14万人
温泉場の暖簾には「湯」と書いてあるが、中国ではスープのことです。中国人は温泉を飲んじゃうよ。

一方、昨年は日中関係が極めて微妙になりましたが、中国人個人々々の人間的な温かみはその国を訪れてわかることで、政治の世界とは無関係の世界だと感じています。



この景色が人民元の20元になっています

私たちは中国語と文化を学ぶ楽しみで、これからも中国を理解していきたいと考えています。

その為にはもっともっと中国語を勉強しなければならないと痛感しています。

ホームページアドレス：

<http://www.manabukai.sakura.ne.jp/> 请大家上网查询

新しい役員は次の通りです。

会 役 職	氏 名	ク ラ ス
会 長	渡 邊 敏 行	火 曜
副 会 長	小 野 寺 登	火 曜
副 会 長	小 林 由 紀 江	火 曜
会 計	薄 井 則 久	火 曜
会 計 監 査	福 永 静 雄	木 曜
ホ ー ム ペ ー ジ 担 当	渡 邊 敏 行	
ク ラ ス 役 職	氏 名	ク ラ ス
月 曜 役 員	久 保 田 利 昌	月 曜
月 曜 役 員 (会 計)	堀 下 瑞 子	月 曜
火 曜 役 員	大 野 祝 宣	火 曜
火 曜 役 員 (会 計)	泉 初 代	火 曜
水 曜 役 員	蜂 屋 和 男	水 曜
木 曜 役 員	三 橋 直 行	木 曜
木 曜 役 員 (会 計)	中 島 良 光	木 曜

新会員のアンケート

月曜クラス 清田 美智子

◇ 「中国語を始めたきっかけ」

以前、中国残留孤児の子供に、たまたま出会い、意思の疎通がとても難しかった体験があり、語学の必要性を痛感したので。

◇ 「今 中国語を学んで感じていること」

先生の教え方の解りやすく、クラスの雰囲気も和気藹々としていて、役員の方々も親切です。

上達するには、本人のやる気次第とっております。

これからの、どうぞ宜しくご指導ください。

月曜クラス 柏木 伸子

◇ 「中国語を始めたきっかけを教えてください」

仕事で中国語を使っているので、話せたらいいなあと始めてみました。

◇ 「今中国語を学んで感じていること」

発音が難しいです。

月曜クラスの浅沼信久です。

◇ 中国語を始めたきっかけを教えてください。

私の息子は台湾の対中で生活しています。

今年の7月、息子は地元の方と結婚しました。

これからも台湾の親戚の方々と末永いお付き合いをしていくには、お互いの意思伝達をより円滑にする必要性を痛感しました。

”郷に入っては郷に従え”の教えに従い、片言の中国でも話せるようになりたいと思いました。

その様な時、タウンジャーナルで”ピンインから教える中国語サークルの募集”知りました。

◇ 今中国語を学んで感じていること。

英語を習い始めた時と比べて、漢字文化の中国語の学習には親しみを感じています。

しかし、発音が一番大事な中国語の学習は、記憶力の低下、舌の呂律もまわりにくくなり始めた68歳の身に厳しいものがあります。

多数の老若男女が集い、楽しく学んでいる月曜クラス、皆さんの活力をこれからも少しでも吸収させていただき、来年には他のクラスにも参加できたらと思っています。

◇ 中国語を学ぶ会入会の動機

星期二班 柏木 千尋

2012年9月から中国語を学ぶ会に入会しました。

退職後に中国に旅行に行きたいので、土・日曜日に平塚図書館、平塚図書館がお休みの日は、東海大学湘南校舎の図書館を利用して、中国語を学んできました。

けれども、図書館の漢字の読み方がカタカナで書いてあったので、そのまま覚えましたが、実際とは違う事が分かり、中国語を学ぶ会で、基礎から始めたいと思い入会しました。

言語はもとより、中国の情勢、習慣の違い、中国56民族の言語の違い等、知りたいことが沢山あります。どうぞよろしくお願い致します。

水曜クラス 佐藤 真智子

わたしが中国語と出会ったのはNHKで石川忠久さんの『漢詩をよむ』を聞いていた頃、あのすばらしい名調子で読み上げられる漢詩の響きに魅せられ毎日楽しみに聞いていて、中国の美しい山河と漢詩のリズムに魅せられていました。

習字も漢詩とは関係深く、日本語読みでなく中国読みだとどう読むのかなと、いつも思っていました。

その後、カベラの会に入れて載いて、いろいろの国から日本にきて言葉が出来なくてお困りの方々にボランティアをさせて載いて、中国語が少しでも出来たらコミュニケーションが取り易いのかなと思い、この会に参加しました。

いろいろ歴史があり、代々の会長さんのお蔭ですっと続いていることは心より感謝申し上げます。

以前には中央フェスタに参加して中国の歌を皆で緊張した顔で歌ったこともあります。

あこがれの中国旅行にもたびたび参加できて広大な山河、冬には川がピンピンに凍って、スケートも出来るんですね。

まだ行きたいとこ、たくさんあるけど、行けるようになる日が早く来るのを待ち望んでいます。

長いこと中国語を習っていて飽きないと言うことは、語学という底なし沼にはまってしまっているものと思われれます。どうぞもう少しお付き合いのほどお願いします。

☎0463-31-6360

携帯08050147656

昨年始めたこと

星期四 宿屋 飯盛

私は運動が苦手である。特に球技がだめだ。視力が弱いことと、左利きから、右利きに、強制的に直されたことが原因ではないかと思う。昨年の初め、友人からゴルフを始めないかと、誘われた。道具は古いものを上げるし、最初は面倒を見てあげるからと、言われた。暇は十分あるし、お金も少し位は余裕がある。ゴルフは老人でも出来るスポーツであるし、そこまで言われて断る理由はない。置いてあるボールを打つだけ、64歳の私でも、今から始めて遅くはないだろうと、高をくくっていた。

いざ始めてみると、ボールにまともに当たらない。距離は出ないし、真っ直ぐには飛ばない。もう、やめてしまおうかと、思う。しかし、途中でやめてしまうのも嫌だ。もう少し続けて見ようと、3ヶ月を過ぎたころから、距離は出るようになった。

しかし、真っ直ぐには飛ばない。何ともやるせない気持ちをため息とともに吐き出し、もう少し頑張ってみようと、練習場に通り続けた。10ヶ月を過ぎた今は、何とか、真っ直ぐに飛ぶようになった。距離も200ヤードを越えるようになったし、7番アイアンで150ヤード近く飛ぶようになった。

中国語の学習は山登りに似ていると思う。ただ、立ち止まっていると、ズルズルと下がってしまう、山登りでもある。休まず少しずつでも続けていけば、いつか見晴らしの良いところに出て、眼下に広がる景色を眺めた時、此処まで登って来たかと思える時がいつか来ると思う。しかし、その前に、呆けてしまうかもしれない。

zěn me biǎo dá hǎo 怎么表达好？

星期四班 鸟泽 光代

qù yī yuàn kàn bìng de shí hòu , dà fū wèn wǒ
去医院看病的时候，大夫问我

“téng de zěn me yàng ?”
“疼得怎么样？”

yīng gāi zěn me gào sù dà fū hǎo ,
应该怎么告诉大夫好，

wǒ chá yī chá téng tòng zhuàng kuàng de biǎo dá 。
我查一查疼痛状况的表达。

yǒu diǎn téng fēi cháng téng
1 有点疼 2 非常疼

téng de shòu bú liǎo téng de bú néng dòng
3 疼得受不了 4 疼得不能动

yī zhèn zhèn dì téng zhèn zhèn jù téng
5 一阵阵地疼 6 阵阵剧疼

yī tiào yī tiào dì tòng xiàng zhuī zǐ zhā shì de
7 一跳一跳地疼 8 像锥子扎似的

téng tòng téng de xiàng zhā
疼 痛 9 疼得像扎

jìn shén me dōng xī sì de
进什么东西似的

huǒ là là dì téng hún shēn cì tòng
10 火辣辣地疼 11 浑身刺痛

tóu yī gè jìn dì téng
12 头一个劲地疼

tóu téng de hǎo xiàng yāo liè kāi shì de
13 头疼得好像要裂开似的

tū rán jiǎo jìn dì tòng yòu tòng yòu yǎng
14 突然绞劲地疼 15 又痛又痒

zhǒng tòng liè kǒu téng
16 肿痛 17 裂口疼

どのように表現すればいいのか

病院の診察の時、医師にどのように痛いのか訊かれ、どのように伝えればいいのか、痛みの様子表現を調べてみました。

1 少し痛いです 2 とても痛いです 3 痛くてたまりません

4 痛くて動けません

5 ズキズキ痛みます 6 うずきます 7 ズキズキ痛みます

8 キリキリ痛みます 9 錐で刺されたように痛いです

10 リヒリします 11 体中がチクチクします 12 頭がガンガン痛いです

13 頭が割れるように痛いです 14 突然きゅっと痛みます

15 痛痒いです 16 腫れて痛いです 17 切れて痛いです

cān guān zhōng guó wáng cháo de zhì bǎo zhǎn
参观「中国王朝的至宝展」

2012年12月 星期二班 大野 祝宣

2012年11月的有一天我们去上野的

dōng jīng guó lì bó wù guǎn píng chéng guǎn cān
东京国立博物馆平成馆

参观了「中国王朝的至宝展」。

zhè tiān shàng yě gōng yuán tiān qì hǎo dàn shì lěng
这天 上野 公园 天气 好、但是 冷
fēng guā de lì hài le hěn duō shù yè biàn hóng le
风 刮得 厉害 了。很 多 树 叶 变 红 了、
zài zhè lǐ yǒu hěn duō rén hěn rè nào
在 这 里 有 很 多 人 很 热 闹。
fēng jǐng huà huà de rén qù dòng wù yuán de rén sǎn sǎn
风 景 画 画 的 人、去 动 物 园 的 人、散 散
bù de rén děng děng
步 的 人、等 等。

shàng yě gōng yuán lǐ zhèng zài jǔ xíng hěn duō
上 野 公 园 里 正 在 举 行 很 多
zhǎn lǎn huì le zài shàng yě sēn měi shù guǎn
展 览 会 了。在 上 野 森 美 术 馆 的
「tú tǎn kǎ mēng zhǎn guó lì kē xué bó wù guǎn de
「图 坦 卡 蒙 展」、国 立 科 学 博 物 馆 的
「qiǎo kè lì zhǎn dōng jīng guó lì bó wù guǎn de chū yún
「巧 克 力 展」、东 京 国 立 博 物 馆 的「出 云、
shèng dì de zhì bǎo zhǎn děng děng
圣 地 的 至 宝 展」、等 等。

jù shuō cóng zuì gǔ zhōng guó wáng cháo de xià cháo
据 说、从 最 古 中 国 王 朝 的 夏 朝
jì yuán qián 2000 nián dào sòng cháo xī lì
(纪 元 前 2000 年) 到 宋 朝 (西 历 1200 年)
gè gè shí dài de wén wù bú shǎo zhǎn chū le { bǐ rú、
各 个 时 代 的 文 物 不 少 展 出 了。{ 比 如、
jù shuō shì shǔ shí dài zuò de jīn zhì zào de jiǎ miàn jù }
据 说 是 蜀 时 代 做 的 金 制 造 的「假 面 具」。
bǐ rú shǔ shí dài zhì zào de jīn de jiǎ miàn jù qīng tóng de
比 如、蜀 时 代 制 造 的 金 的「假 面 具」、青 铜 的
tū mù jiǎ miàn jù qín shí dài zhì zào de qīng
「突 目 假 面 具」、秦 时 代 制 造 的 青 铜 的「龙」、等 等。
bù shèng méi jǔ
不 胜 枚 举。

běi jīng gù gōng bó wù yuán xuǎn
「北 京 故 宫 博 物 院 200 选」
zhǎn lǎn huì yú jīn nián yuè jǔ xíng de shí hòu
展 览 会 于 今 年 1 月 举 行 的 时 候、
miáo shù le běi sòng shí dài de qīng míng shàng hé tú
描 述 了 北 宋 时 代 的「清 明 上 河 图」
zhǎn chū le yīn wéi zhè fú huà dào xiàn zài zhōng guó yǐ wài
展 出 了。因 为 这 幅 画 到 现 在 中 国 以 外
méi zhǎn chū de hěn yǒu míng huà suǒ yǐ yào kàn yī yǎn de
没 展 出 的 很 有 名 画、所 以 要 看 一 眼 的
hěn duō rén lái dào zhǎn lǎn huì wéi yǒu rù chǎng xiàn zhì le
很 多 人 来 到 展 览 会。为 此 有 入 场 限 制 了。
zhèng hǎo wǒ men qù de shí hòu
正 好 我 们 去 的 时 候、
bǐ běi jīng gù gōng bó wù yuán xuǎn shēn guān rén
比 北 京 故 宫 博 物 院 200 选」参 观 人

shǎo le suǒ yǐ cān guān shí jiān chōng yù le
少 了、所 以 参 观 时 间 充 裕 了。
gǔ dài rén mín de jì shù shuǐ píng de gāo
古 代 人 民 的 技 术 水 平 的 高、
ràng wǒ men jīng tàn le ér yòu guò le yǒu yì sī de yī tiān
让 我 们 惊 叹 了、而 又 过 了 有 意 思 的 一 天。
cān guān zhǎn lǎn huì yǐ hòu qù xiū zhèng yī xīn de
参 观 展 览 会 以 后 去 修 正 一 新 的
dōng jīng zhàn zhào zhāng xiāng le
东 京 站 照 张 相 了。
gēn wǒ men yī yàng xiǎng de rén hěn duō
跟 我 们 一 样 想 的 人 很 多、
zhào piàn méi yǒu zhào hǎo
照 片 没 有 照 好。
yǒu jī huì zài xiǎng qù dōng jīng zhàn
有 机 会 再 想 去 东 京 站。

「中国王朝の至宝展」の見学

2012年11月のある日、私たちは上野の国立博物館平成館に「中国王朝の至宝展」の見学に行った。この日の上野公園は良い天気であったが冷たい風が吹いていた。多くの木の葉も赤く色付いており、多くの人で賑わっていた。風景画を描く人、動物園に行く人、散歩をする人、等々。

ちょうど上野公園では沢山の展覧会が開かれていた。上野の森美術館では「ツタンカーメン展」、国立科学博物館では「チョコレート展」、東京国立博物館では「出雲・聖地の至宝展」、等々。

中国で最古の王朝と言われる夏王朝（紀元前2000年）から宋王朝（西暦200年）の時代迄の中国歴代王朝の至宝が数多く展示されていた。例えば、蜀の時代に作られた「金製の仮面」、「青銅製の突目仮面」、秦の時代に作られた「青銅製の龍」等上げれば切りがない。{例えば、蜀の時代に作られたと言われている金製の「仮面」。}

今年1月に開催された「北京故宫博物院200選展」の時は、北宋時代に書かれたと言われている中国国外初展示品「清明上河圖」を、一目見なければと言う人が数多く詰め

掛け入場制限もあったが、ちょうどこの日はそれ程でもなくゆっく
り見学する事が出来た。

古人の技術の高さに感嘆し、そしてまた有意義な1日を過ごした。

展覧会見学後新装なった東京駅に写真を撮りに行ったが、私たち
と同じ考えの人たちが

多く良い写真は撮れなかった。機会があったらまた東京駅に行こう
と思っている。

2012年12月 火曜日クラス 大野 祝宣

なぞなぞ

星期四班 熊谷 啓子

你们好 なぞなぞ をひとつ

yī zhī huǒ chái bàng shāo jiāo le
一 支 火 柴 棒 烧 焦 了

sòng dào yī yuàn qù jiù jí
送 到 医 院 去 救 急 ! = 3

tā chū yuàn zhī hòu huì biàn chéng shén me
它 出 院 之 后 会 变 成 什 么 ?

cāi cāi kàn ma
猜 猜 看 嘛 ?

一本のマッチ棒が焦げてしまい救急で運ばれました。退院してきた
彼はどうなりましたか?

jiù biàn chéng mián huā bàng a tóu shàng chán zhe
就 变 成 棉 花 棒 啊 ! 头 上 缠 着

shā bù de nà zhī mián huā bàng a
纱 布 的 那 支 棉 花 棒 啊 。

そう、マッチ君は麵棒君になってしまいました。

——台湾ドラマ「深 情 密 码」10-6より

zǎo jīng lí qī wēi yì gān ái
弱 冠 25 歳、高 慢 な 若 手 总 经 理 ， 戚 伟 易 は、有 些 日 肝 癌

に冒されていることを知ります。そこへ元の未 婚 妻

xiǎo guāng xiào huà
晓 光 が 病 室 を 訪 れ、こ の 笑 話 で 笑 わ ぞ う と す る の で
す。

しかし今や彼は余命3ヶ月の命を幼いころの恋人

yǎ bā shēn shēn
哑 巴 深 深 と 生 き よ う と 手 術 を 決 意 し て い た の で す 。

“rén huó zhe jiù suàn méi yǒu xī wàng
“ 人 活 着 就 算 没 有 希 望 、

zǒng gāi yǒu zé rèn ba suǒ yǐ jiē xià lái de
总 该 有 责 任 吧 。 所 以 接 下 来 的

měi yī tiān wǒ huì bǎ wǒ de zé rèn yī yī wán chéng 。 ”
每 一 天 我 会 把 我 的 责 任 一 一 完 成 。”

これは最後の日々を前にした主人公のセリフです。幼氣ない姉、そ
の姉の為に学校に行けない弟、二人は？

ひとすりのマッチ棒の光と炎のように切なくいとおいしい愛をそこ
ここにちりばめて、この物語はさらに紡がれていきます。

老曲 TRY TO REMEMBER が全編を通して流れ、

qià sì nǐ de wēn róu
恰 似 你 的 温 柔 の 曲 と と も に み な さ ま の 心 の ひ だ を の ば
して、初恋の痛みを走馬灯のように照らしてくれるでしょう。

TOU TUBE または DVD でご覧いただけます。わたしの一番好

きな台湾ドラマ「深 情 密 码」のご紹介でした。

紹介：現代中国の小説“兄弟”；余华著・泉京鹿译

星期一班 久保田 利昌

最近我看了中国的现代小说。原来，我对中国的历史挺有兴趣，特别从
夏周时代到宋（北・南）时代。因此，我看过关于那些时代的很多小说。
但是都是日语和日本的作家的。

公司退休以后，我常常去图书馆借书。这次也去找那些时代的中国的历史
小说，偶然看见这本书。可是、我不知道那个著者“余华”、只是知道翻
译者的名字“泉京鹿”。这本书的题目就是“兄弟”。

当然我一点儿不知道那个书的故事。我拿起那本书看看翻译者的后记，马
上决定借那书。有在两件理由借的。

第一；这本书的译者，“泉京鹿”女士是泉夫人的令愛。她在这个会的星
期二班。

第二；我没看过现代中国小说，特别是文革时代的和那以后的。
那么，就开始介绍“兄弟”。

这本小说是两个兄弟的故事。他们生活在完全不同价值观的两个时代。那
是文革时代和开放经济时代。

这对兄弟没有血缘关系。因为是各自父母带孩子再婚的。哥哥（兄）叫“宋
钢”、他是父亲的儿子。弟弟叫“李光”、母亲的。宋钢比李光大1岁。
他们是亲密的兄弟、就像是真兄弟。哥哥是非常认真的人，弟弟常常喜欢

做恶作剧。

他们的少年时代是在文革最盛期。他们家不富裕，但是他们的精神很富裕。他们爸爸是初中的老师，很有威望。他率先参加了“毛泽东思想”的启蒙运动指导。可是他受到批判，最后死了。理由只是他是地主出身的。过了一假时间，他太太也死了。在那个很残酷的文革时代，他们的兄弟烧幸活下来了。

这下册的故事发生在改革开放时代。这个时代比文革时代，体制变化了180度。经济活动扩大推进了。李光（弟弟），他的调皮生活方式是正适合的。他从穷人变成大富豪了。而另一方，宋钢（哥哥）不能改变他的生活方式，所以他的生活没有改善了。很穷困，他又得病了。弟弟伸出资金援助，但是哥哥不用那笔钱，最后死了。

在改革开放的社会，今天的李光（弟弟）没有什么东西不能买。可是面对宋钢的死亡，他认识到“钱不能满足人的心”。他明白了哥哥的爱。李光决定带宋钢去太空。他花大笔旅费去太空，把宋钢的骨灰散在太空。

这本小说的上册里写的是悲剧的故事，下册里写的很好笑。特别在下册里有反映那个时代象征的话题。我觉得现在的中国也是一样的。

我理解这本书的作者的主张。我想他是“一个思想・一个主义导致大众极端的同样的行动”

这个小说很有意思。日文翻译也很好。大家看看吧！

皆さん、下手な中国語の文章を読んで頂きありがとうございました。小生は“中国語を学ぶ会”に参加させて頂き早2年半が経過しました。全く汉语のイロハもわからず参加しましたが、今回“你好”の原稿寄稿にあたり、無謀にも学習した成果を少しでも体感して見様と思ひ立ちこの様な中国語での寄稿といたしました。今回、日本語での文章を作成しそれを中国語に訳すと言う作業ではなく、頭から中国語での文章を作成し始めましたので、文の内容も十分吟味・推敲もせず書き下しましたので、中国語の能力不足（当然の事ですが）の為、稚拙な内容になっております点はご容赦ください。ただし、自分自身にとりましてはこの正月中を含め3週間ほどチョコチョコ文章作成し、かなりの勉強になったと思っております。当然、この文章は、小生作成後、李老師にチェックをして頂き寄稿しております。老師にはお手間を取らせてしまいました

大変感謝をしております。ありがとうございました。

では、上記中国語文章を日本語にて紹介させていただきます。

つい最近、中国の現代小説を読みました。元々、中国の歴史、特に夏・周から宋時代にかけての、にはとても興味を持っていました。その様なわけでそれらの時代に関する小説は多く読むことができました。しかし、それらは皆、日本語であり日本の作家のものですが。

退職後、私はよく図書館に本を借りに行っています。今回もまたそれらの時代の中国歴史小説を探しに行った時にたまたまこの本を見つけました。ただし、この本の著者である“余華”は知りませんが、ただ、その翻訳者の“泉京鹿”さん、の名前は知っておりました。この本の題名こそ“兄弟”です。

当然その本内容は少しも知っておりません。私はその本を手に取り“訳者あとがき”を読んで、すぐにそれを借りる事にしました。その理由は下記2点です。

この本の翻訳者の泉京鹿さんは、当“中国語を学ぶ会火曜日クラス”におられる泉さんのお嬢様であること私自身が現在の中国の小説を読んだ事が無いので。特に文革時代やそれ以降の時代の物を。

では、早速この本“兄弟”を紹介します。

この小説は2人の兄弟の物語です。彼らはこの価値観が全く異なる二つの時代を送りました。その二つの時代とは、文化革命時代と開放経済時代です。

この兄弟の血縁関係はありません。と言うのは、彼らの父母は再婚同士ですから。兄は“宋鋼”で父親の連れ子であり、弟の“李光”は母親の子です。宋鋼が李光より1才兄です。彼らはとても仲の良い兄弟でまるで本当の兄弟のようでした。兄はとっても真面目な性格の子で、一方、弟はヤンチャ坊主でした。

彼らの少年期は正に文革の最盛期でした。彼らの家庭は決して裕福ではなかったが心豊かな家でした。父親は中学の先生でとても尊敬を受けていました。彼は率先して“毛沢東思想”の啓蒙活動の指導に参加してい

研修旅行記

佐藤 真智子

ました。しかし彼は只、(解放以前の)地主階級の出身というだけで“批判”を受け亡くなりました。

間もなく、母親も亡くなってしまいました。文革時代はその様なとても残酷な時でした。彼ら兄弟はその時代を逞しく生抜きました。

下巻は改革開放時代での物語です。この時代は文革時代と比べるとその体制は180度の変わりようです。弟・李光の抜け目無い生き方は正にこの時代にピッタリとなり、貧乏生活から大富豪になった。その一方、兄・宋鋼はその真面目其の物の性格は変わらず、その為生活は全く改善しませんでした。生活は苦しくその上病気になってしまった。弟は資金の援助をしたが、兄はそれを使わずとうとう亡くなってしまいました。改革開放社会の現在、今の李光には“金で買えない物は何もない”。しかし、宋鋼の死に直面し、彼は“金で人の心は満たす事は出来ない”事に思い至りました。彼は、兄の宋鋼を本当に好きだったと理解した。李光は宋鋼を宇宙に連れて行くことにした。彼は莫大な費用を使い宇宙に行き、宋鋼の遺灰を宇宙に撒きました(本当に二人兄弟だけの世界を見出した)。

この小説の上巻は“悲劇”で、下巻は“喜劇”的なストーリーとなっています。

特に下巻はその時代(解放経済時代)を映した象徴的な話題が多く描かれている。私自身は現在(現時点)の中国も同様な感じを持っております。

私はこの著者の主張(訴えたい事)を理解します。私は彼は“一つの思想・一つの主義(だけしか認めない事)は、大衆を極端な画一的な行動様式に導いてしまう”という(危険性がある)のではないかと主張すると思います。

この小説はとても面白いです。日本語訳も大変良いです(読みやすいです)。皆さん、是非、読んでみてください。

中国旅行は毎回楽しく内容も豊富です。今回も盛りだくさんのスケジュールで、あっという間に日が過ぎてしまいました。

漓江下りは暑かったけれど、すばらしい眺めで忘れられない思い出の一つです。林さんのお宅での食事でライチをたくさん載せて感激でした。街でたくさん果物を売っていて豊富な数と種類にびっくりしました。持って帰れないのでたくさんお腹に詰め込んで、でも味見できなかった果物もたくさんあって、ちょっと残念でした。

桂林の専門学校生との交流、若い世代との話、両方で固まっていたので、今度機会があったら何らかの工夫が必要かと反省しています。竜勝の棚田登るのは大変だったけど頂上からの眺めは格別でした。いろいろお世話様になりました。

携帯08050147656も大変ですね。私も贅沢いわないで身を引き締めて生きようと

思っています。中国に対する見方も見聞も広がり今まで以上に興味が沸いてきました。侯徳建の《竜的伝人》を思い出してテープは在ったものの歌詞が不明瞭、でも又聞いてみる積もりです。中国は広いな！と再確認できた楽しい旅でした。皆様には大変お世話になりました。

車窓からの山々

星期四班 鳥澤 光代

笹子トンネルの崩落事故の5日前、諏訪下社周辺をウォーキングというツアーに参加しました。

この日は前日の激しい風雨が嘘のようにすっきりと上がった冬晴れ？秋晴れ？でした。

私はこの中央自動車道を走るのが大好きで、甲府を過ぎて、左手に高い山並みが見え出すとうれしくなります。

富士山のふもとを走ると澄んだ空に雪煙が上がるのがはっきり見え、紺碧の空に上っており、裾近くまで雪をかぶった富士は息をのむほどきれ

いでした。

いよいよ南アルプス、中央アルプスの山々が見え出しました。一点の雲もなく、とても近くに見え、どの山も真っ白に冠雪して夏山より堂々と立派に見えます。

かつて登った北岳、あこがれの甲斐駒、鳳凰三山、共に雪煙を上げて素晴らしい眺めです。

実は山が好だけれど、この山々の名前もうろ覚えであれが甲斐駒だろう、観音岳はこっちかなーくらいにしかわかっていませんでした。たいてい雲がかかっており山の姿をはっきり認識できていなかったのです。でも今日わかりました、これからははっきりとあれが地蔵、甲斐駒の横に見えているのは仙丈と言える自信がつかしました。

そうこうしていると右手にハヶ岳が見えてきました、その右手奥にはなんと奥秩父の山々が見えるではありませんか。ごつごつの瑞牆山、頂上に大岩の金峰山が見えます。登った山は懐かしく親しみを感じます。ハヶ岳も冠雪していて凜と立っている感じです。

雲がわいて見えなかった蓼科山や車山も帰りの車窓からははっきり見えました。

なんていい日だったんだろう、富士を前方に見ながらの帰路も大方の人は眠っているなか、一人興奮して車窓の風景に見とれていました。

紅葉と青い空、雪を頂いた山々、諏訪神社の印象は薄くなったけれどもいい旅でした。

2012年研修旅行「桂林・広州の旅」に参加して

星期二班 薄井則久

「中国語を学ぶ会」恒例行事の中国研修旅行「桂林・広州の旅」に参加してきた。

今回の日程は7月5日～10日の6日間で、行先は広西チワン族自治区の桂林・陽朔と広東省の広州である。

真夏の暑い中での旅ではあるが、「暑い時は暑いところに行け！寒い時は寒いところに行け」という言葉を何かで聞いたことがある。要は自然に逆らわない旅がベストであるということだろう。

7月5日午前11時平塚駅に集合、15:30の成田発なので余裕をも

っての成田行きとなる・・・はずだったのだが、東海道線でアクシデントが発生。

藤沢駅の構内放送で「藤沢～戸塚間の横須賀線の車両内で、刃物を振りまわしている男がいて捕り物中」の放送。我らが乗車している電車の藤沢から先の運行が未定とのこと。

列車は10分、20分と動く様子が全くなし。向かい側の席に座っていた渡邊さんが心配顔になってきた・・・。

隣の席の李老師に「渡邊さん、深刻な顔になっているね！」と。今回も旅行のすべてをお任せの私は、渡邊さんを頼るだけ。結局、1時間少しの遅れで成田に着く。ところが今度は航空会社の搭乗手続きミスで30分近くゴタゴタ。

どうにか搭乗口にたどり着いたら出発が15分遅れの表示。

あ～あ 想定外のアクシデント連発だ。

20分遅れで発った機は、4時間の空の旅で広州白雲国際空港に到着。ここで国内線に乗り換えて桂林まで行く。

桂林行きの搭乗口を誰もが疑わずA区の行列の後に並び・・・しばらく進んで窓口近くなってきたら誰が気づいたのか「桂林行きの搭乗口はB区だって！」。広～い 広州空港内をA区からB区へと移動する。

移動の途中、ライチやマンゴーを並べた果物店があり覗きたかったが、遅れ気味の一行がそれを許さない雰囲気。

急いで果物の写真を2、3枚撮って、先を急いで行く皆さんの後を一生懸命追いかけた。

桂林行きの搭乗口まで来て一安心。

フライトは21:20分、少し時間があるので夕食を食べようと「唯憶面館」に入る。

ところが出来てきた麺には具がな



い！店の女の子に問い質したところ「皆さん、時間が無いようだから
具を省きました」ですって！出されたお手拭用のウェットティッシュを
老師が確認したら有料で一枚1元。「我不要！」。缶ビールはメニューに
載ってない？ 买单したら1本50元だった。（日本でも3本飲めるぞー）

店の名前「唯忆」を私なりに訳すると「ただ回想するだけ・・・」と言
うことでしょうか。納得！ 名前の通り、このお店で体験したいいろ
んなことが思い返せるのでした。

広州～桂林は1時間のフライト。先に桂林入りをしている久保田さんと
旅行社の邹进が、到着ロビーで出迎えてくれるのかな・・・なんて話し
ながら出てきたら、誰もいない??

渡邊さんが携帯で邹进到連絡すると、ほどなく出口付近のマクドナルド
の店から二人が急いで出てきた。

到着時間が表示されなかったのでコーヒーを飲んでいたらしい。感動的
な歓迎なしの桂林入りとなってしまった。

旅行社の邹进は、去年の「河南・山西省の旅」の旅で我々と一週間共に
した仲、1年ぶりの再会を喜び合う。

外は蒸し風呂のような湿度と暑さだ。桂林空港の夜景を撮ろうとしたが
シャッターが切れない。レンズがくもって自動ピントが合わずシャッ
ターが切れないのだ。

ホテルに向かう道中、道路沿いや建物の背後に岩山がぼんやりと浮か
んで、桂林らしい景色が見え始めた。街に入ると夜中だというのに、商店
も道路沿いの屋台も灯りを煌々と照らして営業中。南国だな～。

午前0時近くに「桂林賓館」到着。ホテル内の便利店で缶ビールを購
入。（広州空港の1/5の値段でした）旅行初日からこんなにアクシデ
ントありでは、この先どんなハプニングに遭遇するかワクワクして来
る・・・。

1日目でこんなにページを割いてしまった。この先6日間もある旅の顛
末記はどこまで書けるやら。

7月6日(晴) 旅行2日目。桂林観光のハイライト漓江下りと陽朔周

辺の散策。

ホテルを出ると小雨が降っていて蒸し暑い！ 漓江下りは「晴れの日よ
り小雨に煙る風景の方が趣がある」と自分に言い聞かせて竹江埠頭に向
かう。バスの中は現地ガイドの”姜さん”。彼は日本に3年間住んでい
たと言っていたが、日本語の説明が怪しくなると笑って誤魔化すか、途
中で説明をやめてしまう愉快的なガイドである。

朝から豆腐の話(この話は旅行参加者だけが分かる話でごめんなさい！)
をしては、一人で喜んでた。ゆるやかな曲線を描いて流れる漓江にす
べり出した遊覧船は、降っていた雨がすっかり上がった漓江を下り始め
た。

川霧に煙る千姿万態の峰また峰は、「百里漓江・百里画廊」と讃えられ
ている水墨絵巻の世界で
ある。

兩岸にそびえる奇峰や川
岸の村落には、その山容
や景観に似つかわしい名
前が付けられている。冠
岩、望夫石、浪石煙雨、
楊堤、九馬画山など、説
明を受けながら眺めると
それらしく見えてくる。

遊覧船の周辺には、5～
6人乗りの小さな筏が数
多く下っている。のんび
り川を下ったり、筏を降
りて川の浅瀬で遊んでい
る姿を見ると、中国語で
漓江下りを”漓江遊”と
いう言葉がうなずける。

漓江随一の美観を誇る興



坪（ツピ）という漁村で下船する。この興坪からの眺めは20人民元の裏面に画かれている所で、20元札を持ち出して見比べたり写真を撮ったりと、漓江下りのハイライトである。

この興坪に日本人の林さんと言う方が営む民宿があり、そこで昼食をすることになった。

林さんは1996年に興坪を訪れ、漓江流域で一番眺めが良い老寨山からの景色の素晴らしさに感動し、その感動を「漓江の環境保護ボランティア」活動に進展させ、10年以上も漓江沿いのごみ拾い活動をしているとの事。

又、私財1600万円を投じて、老寨山頂上までの山路を整備したり、



山腹に展望亭やトイレを設置した。

28歳年下(林さんは今年66歳)の中国人の奥さんが、筍や南瓜のつるなどの食材で作る家庭料理は”好吃！”

林さんに別れを告げ、興坪の古い街を散策

しバスで陽朔に向かう。途中、山の上部に大きな穴が開いている「月亮山」を観光。見る角度によって月の形に見えることから月亮山（Yue liang shan）と呼ばれている。

周囲を奇峰に囲まれた漓江下りの終着点「陽朔」に着く。街の至る所に緑の岩山があって異様な風景だ。

夕食前2時間近く空き時間があるので、街を散策する人、マッサージに行く人、ホテルで休息する人に別れる。

私は勿論、街歩き組。お土産屋を覗いたり、住民が利用している超市では桂林米粉(匕-ㄗ)を1.5kgも買った。

時間の経つのも忘れて買い物をしていたら、雷の音と共に土砂降りの雨が降り出した。

運よく2台のタクシーが拾え、分乗してホテルまで。私の乗ったタクシーが先に着いたので「多少钱？」小銭が無かったので百元出したら「三十块」との事、後続の老师は「十五块」の支払い。这差价，为什么？教訓①タクシーに乗る時は小銭を用意する。②メーターを見る。③「不贵吗？」と言える勇氣（これは私にはまだ無理だ）と言うことでしょうか？でもクレームつける程の料金ではありませんでした。

夕食は暑さで乾ききった喉に冷えた啤酒を一気飲みしながら、桂林の名物料理という「啤酒鱼」を賞味する。

ほろ酔いで原宿竹下通りのような人・人・店・店で動きが取れない西街を散策。

以前、ここを訪ねたことがある渡邊さんは、シットリと趣のあった昔の西街を懐かしみ、街のあまりにももの変わりようを嘆いていた。

夜9:00からは漓江の水上がステージの「劉三姐ショー」の観覧である。何百人もの役者が光と音楽を駆使したスペクタクル・ショーは、漓江に小舟を漕ぎ出したり、レーザー光線が乱舞するさまなど楽しんだ。

7月7日(晴) 旅行3日目。桂林市内観光、午後から中国の学生達との交流会。

ホテルの窓から漓江の流れが目に入る。私の旅行の楽しみ方のひとつは朝食前に街歩きをすることである。

漓江の川岸に下りると、川面は朝日を受けてキラキラと輝き、幾重にも連なる峰々が見渡せる。そこには古の文人たちが愛した世界と変わらぬ山水画の世界が広がっていた。

「桂林山水甲天下・陽朔山水甲桂林」と称賛される陽朔の山水の美しさは、今も変わらない絶景である。

ホテルの背後にも、向かい側のお土産屋の隣にも緑の岩山がによきによき。こんなに岩山が間近に迫ってくると不思議な世界に入り込んだようである。

陽朔から桂林に戻り市内観光をする。スタートは「七星公園」、9月には桂林の名前の由来となった桂花(金木犀)が園内一斉に花開き、街中に香りが漂うと言っていたが、今回は園内にいる2頭のパンダを見るのにとどまった。

パンダの次は「蘆笛岩（ろてきがん）」という鍾乳洞に行く。カルスト地形の山を外から眺めるのが漓江下りなら内側に潜って見るのがこの蘆笛岩。洞内の鍾乳石が青や紫に色鮮やかにライトアップされていた。鍾乳洞を出ると外は半端じゃない暑さ、Tシャツはすでに汗びしょり。蜂谷さんが着替え用に1000円で2枚→3枚→4枚と増えてくるTシャツを5枚で購入。バスに乗り込む時は1000円で6枚だと言っていた！

次は桂林を象徴するカルスト地形の傑作「象鼻山」に行く。漓江と桃花江の合流地にあるその奇岩は、象が漓江に鼻を入れて水を飲んでいる姿に見え、桂林を訪れる観光客がほぼ必ず訪れる観光スポットである。我々は漓江の水は飲めないので、1個10塊の椰子の果の甘い汁を吸うことにした。

昼食は邹进さんが我々に「鷺鳥（がちょう）料理」をご馳走、北京ダックに負けないその美味しさに舌鼓を打つ。

午後は中国学生との交流会。相手は「桂林旅行専門大学」の1年生男女9名である。交流会は大学の教室が試験シーズンで使用できないということで、旅行会社の会議室となった。

自己紹介から始まり、メモを片手に挨拶をする学生もいたが流暢な日本語だ。一方我らの方はつたない中国語。

私も「你们好！初次见面，我姓薄井・・・」と始めたが、途中から日中語入り混じった自己紹介になっている。

私の交流相手は吴颖という成都出身の女子学生。日本語を使っていたのガイドになりたいと夢を語っていた。

拙い中国語と日本語で会話が續かないので、渡邊さんペアと合流して持参した日中早口言葉で盛り上がる。



交流会は場所を移して、豪華な豚の丸焼きを囲んでの夕食会となる。学生は自慢の歌を披露してくれた。日本のおじさんもアルコールが入って元気になって、楽しい交流会を終える。今回も中国語はまだまだ・・・。学生達と別れて、桂林ナイトクルーズに行く。金、銀色に輝く日月双塔の杉湖を出た船は、河や湖の両岸、橋、建物、山などあらゆるものがライトアップされた幻想的な世界を遊覧する。涼しい川風に当たり、船内での二胡の演奏を聴きながらの遊覧は中国ムード満点でした。

下船後、ガイドの姜さんが「急げ！」と駆け足。それは漓江大瀑布飯店の人口滝ショーが始まるからだ。

20時30分、12階の屋上から流れ出る高さ72メートル、幅45メートルの10分間の人口滝ショーは迫力満点だった。



7月8日(晴)旅行4日目。世界で2番目に大きな棚田のある龍勝観光。

今日訪ねる龍勝は、桂林から約100kmの所にある美しい棚田で有名な所で、広大な棚田にはミャオ族・トン族チワン族などの

少数民族が住んでいる。元から清の時代にかけて開墾した棚田で700年の歴史があると言う。

桂林を出た車はワイパーを動かし始めた。山間部に入ると雨と霧で10メートル先が見えない程の視界である。

「この霧では棚田の景色を見るのは無理かな？」と、不安を感じながら山路を揺られて3時間のバスの旅。

龍勝に着くと空模様は一変して、夏の青空が広がり棚田が見えてきた。

「カエルが飛び跳ねると、3枚の田んぼを超える」と言われる程の狭い田んぼが幾段にも続き、こんな山奥に石を積んで開墾していった少数

民族の労苦には、ただ驚くばかりである。

汗びしょりになりながら、登り着いた頂上の展望台からの眺めは、雨上がりの山間から霧が沸き立ち、美しい曲線を描いた棚田が山裾まで広がっていた。その景観に感動！

展望台で観光用に民族衣装を着た娘さんがいたので、一緒に撮ることにしたのだがこれがひと騒動。

立てば背景の棚田が写らない、座れば民族衣装が写らない、写す方も写



される方も注文が殺到。その上撮った写真を売っている写真屋のおばさんが指示を出す。わいわい騒いでどうにか記念写真が撮れました。

棚田の観光後、桂林空港に向かう。空港でガイドの姜さんと邹进

に見送られて桂林を後に広州に向かう。

広州では珍しい再会が待っていた。それは 2 年前の研修旅行で「アモイ理工学院」との交流会で、交流相手だった「周甜甜」が卒業後、深圳で働いているので広州まで会いに来てくれたのだ。

2 年半ぶりの再会を懐かしみ、旅行仲間と遅い夕食を一緒に取りながら、彼女も忘れかけている日本語を思い出しながら、2 年前の交流会の事や今回の旅行内容などの話に花が咲き、楽しい時間を過ごした。

それにしても、中国のような広大な国でこのように再会が実現する奇遇に驚いている。

7 月 9 日(晴) 旅行 5 日目。今回の旅行で唯一の世界遺産を訪ねる。行先は広州市から南西 130 km 程の開平市の洋楼群（中国語で碉楼 Diao lou）。2007 年に世界遺産に登録されたばかりの観光未開拓の地である。

広州から 2 時間少しのバス移動は、ドライブインでは苹果蕉や皇帝蕉

と言ったバナナを買ったり、北海道香草と名の付いたソフトクリームを食べながらの楽しい旅である。突然、片側 2 車線道路の半分に穀物が干されている？

なんと麦らしき物が延々と干されており、農民が道路上で作業をしている。中国らしい行動だなと妙に感心する。

ジリジリと照付ける夏の太陽の下、華僑の謝維立という人が建てた広大な庭園と洋楼が建っている立園に寄る。

3 人の奥さんを持ち、広大な敷地内にそれぞれの洋楼を建てて住ませた。財力があればそんなことも出来るのか・・・なんて歴史的価値より、男の価値に関心を持つのだった。

一昔前のシーンの映画撮影によく使われていると言う赤坎（Chi kan）古鎮を見た後、待望の開平自力村に着く。

中国らしい農村風景の中、によきによきと建っている洋館（碉楼と呼ぶ方が合っている）は奇異な風景である。

それにしても、今回の旅ではこの「によきによき」という表現が当てはまる風景が多いな～。

この碉楼は 20 世紀の初め、海外で財を成した華僑の人々が故郷に建てた楼閣で、水害と匪賊（集団で出没する盗賊）による被害を防ぐ目的で建築され、現存する碉楼は 1800 棟以上あると言う。

池や蓮池が散在する農村風景の中、お城風の物や塔のように細長いもの、四角い牢獄のような楼閣が夏空の下の風景にすっきりと溶け込んでいた。

自力村で一番美しいと言われる「銘石楼」に登り、バルコニーから周辺に点在している碉楼を見渡した。

今回、ここ開平碉楼は日帰り観光だったが、もしもこの楼閣の近くで一泊することが出来て、夕日に染まる碉楼、星空の下で、そして朝日を浴びて輝く碉楼などを見たら、どんなにか素晴らしい風景だろうなと思いを巡らせる。

研修旅行も今回で 3 回目、交流会ではまだまだ中国語で会話出来る状態ではないものの、タクシーに乗ったり、買い物をする時に片言ながらの話した中国語が通じ、中国の旅がますます面白さを増してきた旅だった。

二つの旅

渡邊 敏行

私は今年もまた何回か中国へと旅立った。

最近の旅行スタイルとしては大別して2つあることに気付いた。

その1つは、**格安ツアーを探しては出かけること。**

もう1つは、**自分なりにデザインした自由な旅。**

最近NHKで放送があった「追跡！真相ファイル 中国人観光客 格安日本ツアーのカラクリ」

景気回復の起爆剤として期待が集まる外国人観光客。政府も「観光立国」の旗をかがげ、旅行者を増やそうとキャンペーンを展開している。しかし格安ツアーに参加した一部の中国人客からは「半ば強制的にショッピングに連れて行かれた」との苦情が観光庁に寄せられている。「日本にはもう行きたくない」という声も上がり、このままではリピーターが減るとの懸念が高まっている。一体何が起きているのか。訪日格安ツアーの実態を追う。・・・

結局は、ガイド資格を持たない中国人・台湾人が、一時滞在ビザで来日し、ガイドを行い旅行社（在日中国系）と結託して中国人旅行者を囲い込み自由を与えず、強制的に免税店に連れ込んで、健康食品を市販価格より高額で販売している。結局中国人が中国人をだましている、この実態を取り締まれない日本政府の不甲斐なさ。

一方、こんな説もある。

「中国」という呼び名で呼べるところは、かつての中原で、満州（中国東北部）、モンゴル（内モンゴルを含む）、新疆ウイグル、チベット、さらにその少し内側は「中国」と呼ぶべきかは難しい、という結論に達しました。また、中国が今のように発展するまでの30年間、日本政府のODA（低金利円借款）がずっと支えてくれたことを忘れてはならない。北京の空港も上海の空港も、鉄道も港も火力発電所もすべて日本のODAで建設されたものである。胡錦濤（フー・ジンタオ）国家主席

も日本を訪問した際、「日本のODAがなかったら、中国が今のように近代化することはなかった」と感謝の言葉を述べている。

それじゃ、我々の旅行はどこに行ったのだろうか？考えさせられる。
あなたはどのように考えますか？

格安ツアー その1

◇ 2012年9月（薄井氏同行）

上海・江南水郷の旅8日間全食事付き 32,800円となっている。

それにしても安い。さらにホテルは5つ星ときている。

しかし落とし穴があった。毎日高額土産物屋2軒、オプションツアーが日本円で

4,000円……。これは買わなければ良いし、ツアーは参加しなければ我慢できる。しかし自由時間はほとんどない。まあ……。しょうがないか。。。。。

◇ ホテルはホリデイイン蘇州、良いホテルだが町はずれ。夕食後は自由がある。薄井氏の友人蘇州美人がホテルに来てくれた。我々3人と一緒に近く

の酒吧（バーで）へ。最近中国のバーはものすごく派手で、ギンギングラグラ、ビートの効いた音楽は隣と話をす



るのも聞きにくい。

◇ ”虎丘”斜塔を入り口から眺めるだけで、中には入らない。私は昔入場したことがあるので問題ないが、安いツアーなので入場料をケチったんだろう。

◇ バスで”運河の街・水郷”西塘”へ。今日はオプションツアー



杭州西湖

がない。ホテルは「World EXPO HOTEL」5星ですごく立派、しかし郊外ではある。窓から眺めると開発区のような。(夕食後は自由) 仲間3人で街に繰り出した。

ホテルのドアマンにマッサージの最高にいい店を教えてください、タクシーで街へ。

小さなバーがあったので入ってみた。カウンターで飲んでみたが、ウィスキー・バーボン・ワイン・ビール何でも揃っている。

さあ、マッサージだ。2時間足つぼ・全身をやってもらい日本円で2,000円弱、タクシー代を入れても3人で6,000円。オプションツアーだと1人4,000円、ポッタクリも良いとこだ。満足満足。

◇ バスで”烏鎮”へ。その後バスで”杭州”へと向かう。約2



西湖の夜 千手観音

時間。”西湖遊覧船観光”約1時間きれいな西湖を遊覧し、気分もさわやか。下船後、”六和塔”観光、希望者だけが別料金登楼代を払い登って行ったが、私は下で

待っていた。

売店の親父が親しげに話してくるので、ビールを買って階段に座って談笑、素朴で楽しいおやじだった。

夜のオプションツアーは「西湖の夜」動画に収めたが、久々に素晴らしいショーだった。圧巻は”千手観音”で聞くところによると全員耳の障害者だそうで、日本でも紹介されているようだ。

◇ 杭州から紹興へ。魯迅記念館・三味書屋・紹興酒工場を回り、工場では10年物20年物の紹興酒を試飲、結局皆に買わせるなかなか良い商法ではある。

上海に戻り、夕食前にツアーから離脱し、上海の友人と待ち合わせ、”北京ダックの全聚徳”上海駅前店で舌鼓。その後友人の知っている店が1周年記念とか。

同行したが、・・・私は上海をよく知っているつもりだったが不思議な世界に紛れ込んだ。

「陝西南路」をちょっと入ったところの住宅街で、ここまで来ないとわからないようなアパートの1階が飲食街になっている。その中の一軒で、韓国人が経営の店である。

客はインターナショナルで、韓国・シンガポール・イギリス・ドイツ・日本・中国の若者男女が多く、英語が飛び交っている。やはり上海はインターナショナルなんだな・・・改めて感じさせられた。



上海の不思議な空間



☆ 今日一日、上海見物だ。ホテルの窓からのぞいたら、朝市をやっている。出発前の時間を利用して行ってみた。昔の上海がそのまま残っている、一般庶民の生活や・活気が残っている。生活に必要な食品が道いっばいに広げられている。いったいどこから運んでくるのだろうか・・・豚肉・うなぎ・カニ・野菜・何でもある。やっぱり食の中国だね。昼食後「上海博物館」

へ。ガイドインターホーンを借り作品の説明を聞いていると、うん蓄が増えるような気がしてきた。

食後オプションツアーは雑技団と足つぼマッサージ。私はパスして、2人で勝手にマッサージ店に向かった。浦東サイドにある店で、日本語が通じる。考えるとこの地区は日本人赴任者が多く住んでいるようだ。十分満足して、OPよりも安い料金である。

翌日 9:10 上海浦東発 12:50 成田着のMU0523 便で帰国。成田から空港バスで帰宅できた。

このツアーの感想として、こんな低料金の割には、ホテルは5つ星で快適、名所旧跡ツアーは駆け足で内容に乏しい、土産物屋に毎日3軒、オプションツアーの料金が日本円建てで3~5,000円は高すぎる。しかしツアー料金を考えると仕方ないのかな・・・個人旅行が多い私から見ると国際線航空券代にもならない32,800円はやはりお買い得ツア

ーかな??? 我慢ガマン

格安ツアー その2 (蜂屋・久保田・中島・鳥澤・佐藤諸氏同行)
 1万円+サーチャージ 9,000円=19,000円で”びっくり大連 4日間”

どんなツアーか体験してやれ・・・と思って仲間と参加したが本当にびっくりした。

ホテルは4星で、食事は量も多いしやや満足、野菜中心だから価格も安いのだろう。

毎日土産物屋に連れて行かれるのは我慢して、買わなければいい。オプションツアーも毎日あるが参加しなければよい。

そんな中1日は自由行動だったので自分で好きなことができる。

ざっとこんな内容で、格安代金を考えると大満足。大連の友人にも会えたし、言うことなかった。

☆ 2月26日(日) 成田発9:30 JL827 大連着 11:50
 事前チェックインを済ませてあるので楽々出国ができた。空港にはガイドが待ち受けていた。我々総勢30人のグループのようだ。ガイドの説明によると、他に2グループANAで来る人々がいて全員同じホテルのようである。

先ずは「星海広場」へ。しかし大連は本当に海がきれいだった。夕食は「四川料理」、麻婆豆腐が辛くておいしい。料理の数は沢山あるが、野菜中心で安上がりだろう。

夜はいろいろオプションツアーが用意されている。「変顔や雑技」を見に行く仲間もいたが、我々3人は夜の街へ。

近くに地元の食堂があり、覗いてみた。ビール3本・焼飯・刀削麺など、若いママさんと中国語を楽しみながら、本当は



腹いっぱいだが味見をしてみた。なかなか美味で、総計何と40元(約520円)安いなあ～～。

◇ 翌日、先ずは中山広場に歴史上の古い建物が残っている。中でも日本統治時代に建てられた「旧大和ホテル」「旧横浜商銀」、満鉄本社、旧日本人街、旧ロシア人街、日本橋、とまわり大連港へ。



その後旧満鉄自慢の機関車(亜細亜号)が保存されていると聞き案内



してもらおう。満鉄の旅客の象徴でもある特急亜細亜号。これは昭和9年11月に営業運転を開始した特急列車で、最初は満州の南端、大連を起点に、満州国首都の新京までを繋ぎ、さらに昭和10年には、さらに新京を越えて北

の松花江からハルビンまで乗り入れた。

◇ 翌日は自由行動の日だ。ツアーにしては珍しく解放される。仲間6人が2つに分かれ、一方はオプションツアーで旅順へ。我々3人は行ったことがあるので「金州」へと向かった。大連の旅行社からガイド嬢「朱東紅」が来てくれ、ワンボックスカーでゆったりと快適な旅に

なりそうだ。

◇ ”南山”に到着。ここは1904年(明治37年)6月7日、乃木希典の長男勝典が戦死したところだが、墓は壊されていた。

◇ 金州提督府裏にはあの坂の上の雲で有名になった「正岡子規」の碑がひっそりとたたずんでいた。



金石灘へ向かう途中、昼食に立ち寄る。大連は海が近いので海産物が豊富、イケスで泳いでいる”アイナメ”の蒸し煮は絶品、餃子もうまい、もっとうまいのが青島ビール・・・なんてね。

大連市内 駅前に戻り、天津街の露店を冷やかし、車は返して路面電車に乗ってみたい。体験のため1区間だけ乗ってきた。

スーパーを案内してもらい、ガイド嬢とはお別れ、あとは勝手に散策とする。ホテルまでタクシーに乗ったが8元(約105円)なんと安いことでしょう。

◇ 総体的には楽しかったし満足だった。何しろ1万円だから我慢することもできる。フリーの日があったのもラッキーだった。ホテルを出てお決まりの土産屋コース。お茶の店に連れて行かれた。可愛い御嬢さんがいろいろなお茶の説明と試飲。毎度のことだけど中国茶



の種類には驚かされる。

私の好みは {一葉茶} 2種類あり、手もみと機械づくり。味わってみると格段の差がある。ついつい買ってしまふ。ちょっと高かったかな?????

買い物を終わり、一路空港へ。4日間お疲れ様でした。

格安ツアーは現地がわかっているガイドのペースに乗せられなく、自由に低料金で楽しめる。初めての人にはガイドが便利になってしまうのは否めないかもしれない。

二つ目は、自分なりにデザインした自由な旅。

① “中国語を学ぶ会” 研修旅行から

2009-03-25 木~03-30 (日)「アモイ・武夷山の旅」総経費約12万円 学生交流会「厦門理工科大学」にて。

② 2011 年は「河南・山西省の洛陽・平遥・五代山・大同」へ”中国語を学ぶ会” 会員10名が参加した珍道中である。

最大の目的は「河南科学大学」の学生との交流会と三大石窟の2つが見学できること。また、永年の願いであった「平遥古城」を見学できることだ。

あ、あなたはどちらに価値観を求めますか???

トイレの話

星期三 蜂屋

「トイレ」と言うなら、やはり“**厕所**”です。

家庭、学校や機関、ホテルのトイレ“**厕所**”と言うことが出来ます。

しかし日本でも「トイレ」にはいろいろな言い方があるように、中国語にもいくつかあります。

ホテルなどのような、ちょっと高級感のある所では“**洗手间**”がよく使われます。

直訳すれば「手を洗うルーム」ということ。

「ルーム、間」ですから、ホテルとかデパートのような建物の中のひと間を指すわけです。“**厕所**”と言うより品がいいので、公共の機関のトイレはこう呼ばれています。

“**盥洗室**”と掛けている所も有りますが、これは書面語です。

個人の家のトイレは“**洗手间**”とは言いません。“**卫生间**”です。

《你家的卫生间真大》

「トイレに行く」ことを相手に知らせるには、色々な言い方が有ります。

“**厕所**”とか“**洗手间**”, “**卫生间**”という名詞を使わない言い方です。

男性向きは動詞“**方便**”をつかいます。

《我想去方便一下。》

女性の方は「**我想去一号**」

この言葉はくだけた表現ですから、親しい友人で使えば良いでしょう。



台湾との出会い

星期一班 浅沼信久

★最初の出会い

中国語圏で最初に訪れた国は台湾で、会社の同僚三人での観光旅行でした。当時、戒厳令が施行されていたが、重々しい雰囲気は少しも感じませんでした。

少し年配の方は私達に美しい日本語で語りかけ、非常に親日的でした。私達はニイハオとシェシェだけの片言で、台湾一周の旅を楽しむ事が出来ました。

それから私は台湾に興味を抱き、司馬遼太郎著「台湾紀行」など台湾に関する書物を読み、更に台湾が好きになりました。

★現在の出会い

それから四十年近く経った今年、台湾との出会いが再開されました。私の息子は閉塞感の日本を逃れ、台湾の企業に就職、台中で生活しています。そこで知り合った台湾女性と結婚したいとのこと。これも父子二代、台湾との何かの縁と思い祝福しました。

このことを契機に、彼女の家族や親戚との出会いが始まりました。この出会いで、書物だけでは知りえなかった新たな発見をしました。

1. 年配者の方で、中国語は理解できるけど流暢に話せない人もいる。比較的若い人で、台湾語は理解できるけど流暢に話せない人もいる。彼女もその一人であり、息子は片言の台湾語は理解できるけど話せない。だから台湾のMRT (地下鉄)は、国語(中国語)、台湾語、客家語、英語の四語を車内放送しているのだと変に納得しました。

2. 家族を大事にし、年長者を敬い、先祖崇拜や古い慣習を大切にする。この傾向は台北より南に下るほど強い。台中周辺は、結婚式の日取りや挙式作法など古い仕来たりが色濃く残り、昭和三十年代の日本そっくりでした。

3. 結婚式の段取りを決める際、彼女の母方の影響力は強力である。私達に気遣いながらも伯母さんが台湾語？で声高に仕切っていた。ここでも台湾女性パワーは偉大だ。“郷に入っては郷に従え”ですが、私達は言葉の問題もあり、出来るだけ簡略な挙式を願望しました。進行状況は時折、彼女から息子にそして私達へと伝達された。私達の希望が叶えられ、簡略化された結婚式を七月吉日に台中で、その六日後に披露宴と決まりました。

結婚式の当日、私達は仲人さん？の指示が理解できないまま従い、なんとか無事に終了しました。

披露宴は多数の老若男女が集まり、あまり気取らずに食事、談笑、乾杯し合って賑やかであった。私も飲みすぎてしまった。

特にお色直しの後、「ピンゴ大会」や「花嫁のブーケくじ引き」のイベントは面白かった。

★これからの出会い

息子夫婦は台中で第二の人生を歩み始めた。私達も新たな台湾の家族との親戚付き合いを深くしなければならない。何かと台湾に行く機会がこれから多くなる。

残りの人生をより楽しむためにも、書物でしか知らない台湾の名所旧跡や台湾の文化にもっと触れてみたい。体力があるうちに念願の新高山にも登りたい。

これからの出会いを確実にするには、私自身がニイハオ、シェシェだけの世界から卒業しなければならない。

台湾語とまではいかなくとも、せめて片言の中国語でも話せたらと思い、「中国語を学ぶ会」の初級クラスに入会しました。

皆様との出会いも半年が過ぎようとしています・・・。

編集を終えて

当会は創立40周年を迎え、歴史の重さを感じています。この重みに応えるためには、何か企画しようと模索していますが どうしよう～～。

今回の原稿にはたくさんの会員から中国語による投稿を頂きました。編集には四苦八苦の連続でした。しかし、レベルアップがこの会の発展にも繋がることと苦労しながら入力しました。

今後も皆さんと努力をし合って後輩に笑われないような会にしなければならぬ、気を引き締めましょう。 渡邊

小孔雀东南飞

李 老师

儿子度过大学生活的第一个学期，寒假回家度假了。

自从儿子半年前南下中国上海留学之后，他和我们全家的生活有了从来没有过的变化。

他自己哪方面可想而知，一个人第一次离开家去那么远的地方，在一个崭新的天地里参与中国的顶尖学生之间，全力努力。

而我和他爸爸也从以孩子为中心的生活变成了两人世界。轻松的同时，也多了一份寂寞。

十多年来，陪伴儿子成长的日日夜夜，有过忧虑，有过不安，今后一定也还会有，但是在更多的日子里，我和儿子共同享受快乐！

我们父母给予孩子生命和温暖的家，而孩子又给予我们人生的使命和意义。

我很喜欢这样一首诗：

让我怎样感谢你

当我走向你的时候

我原想收获一缕春风

你却给了我整个春天！

我要学会以感恩的心情过好每一天，用心去品尝，去体会普通生活的甘味！

